

## 第四回キューバ連帯アジア・パシフィック地域会議への代表派遣 のためのカンパと同行参加の呼びかけ

会報前号においてご案内しましたように、4月25日から『米づくり支援のためのキューバ農業視察団』が、君島一宇 CUBAPON 代表委員を団長に総勢8人で出かけます。稲作研究所、農業省、稲作従事者などとの意見交換、現状視察を行う予定です。次の連帯活動につながる事を期待したいと思います。その他、ICAP(諸国民友好協会)、CTC(キューバ労働者中央組織)との会談、そしてメーデーに参加します。

### あれから10年——日本人移住100年祭から

上記訪問団はまた、従来からの友好訪問団の目的も併せ持っており、日本人移住110年を記念して日系人が多く住む『青年の島』を訪れ日系人を慰問します。CUBAPONは1998年に日本人移住100周年を記念して、日系人が多く住み、キューバ国内で唯一「日本人会」が存在する『青年の島』であい御影さんのコンサートと交歓会を行いました。早くも10年が経ちました。

今回は、自主的に開催されている「日本語教室」へ支援を行い、日系人会の人たちとの出会いを行います。

10年前の100年祭ご参加の皆様で写真などを現地に届けたい方は、4月22日着でお送りください。持参します。

### 第四回アジア・パシフィック地域会議への代表派遣とカンパお願い、そして同行参加者募集

CUBAPONは、キューバのICAP(キューバ諸国民友好協会)の呼びかけに応じ、第四回会議に能村綾 CUBAPON-J 代表幹事を代表派遣することになりました。この連帯会議は1994年にハバナで開催された連帯世界会議の地域版として行われてきており、CVUBAPONは1997年6月ベトナムのハノイで開催された第二回会議に代表派遣してきました。今回は第四回会議ですが2回目の代表派遣となります。ちなみにハバナで行われてきた連帯世界会議は1994年、2000年と開催され日本からはCUBAPONのみが代表を派遣してきています。

第四回会議は、2008年6月14日—15日、スリランカのコロamboで行われます。

※代表派遣のための参加費と旅費が130,000円ほど必要になりますので、カンパをお願いすることになりました。金額を問いませんので、同封振込み用紙でお振込みをよろしくお願いいたします。ご協力いただいた方には会議報告書をお送りいたします。

※同行参加者を若干名募集します。行程は6月13日から16日となります。CUBAPON 代表者が日本語通訳を務めます。詳細は事務局までお問い合わせください。

### CUBAPON 協賛企画 「08・キューバツアー」へのお誘い

来年の1月1日はキューバ革命50年となり、2009年は継続するキューバ革命を訪ね振り返る企画をいろいろ検討していくことになるかと思われます。米作り支援プロジェクトも本格的になるかもしれません。従って、今年は、例年実施してきていた秋の訪問団は計画できそうにありません。

そこで、「埼玉・キューバと勝手に連帯する会(仮称) 呼び掛け人はCUBAPON 会員/松矢文男さん」が企画している表記キューバツアーに協賛し、キューバ訪問希望者に参加を呼び掛けることにしました。ご参加をお待ちしております。

※詳細は別途同封の募集要項をご覧ください。CUBAPON ホームページにも掲載してあります。

### アレイダ・ゲバラさんの来日の行事案内

CUBAPONも連帯の行事に賛同しています。ご参加をお願いします。

期日: 5月17日(土) 午後1時30分~4時30分 場所: 明治大学リバテータワー101教室

資料代: 1500円

主催: キューバ円卓会議 等

『アメリカに囚われている5人のキューバ人の解放を求める日本百人委員会』のHPが開設されました。  
<http://freethecubanfive.jp/>

### 資料

#### 再選への自らの要請または受諾はない フィデル・カストロが言明

ハバナ 2月19日 プレンサ・ラティーナ

フィデル・カストロ議長は、来る2月24日に予定されているキューバ国会本会議では今後自らが国家評議会議長および最高司令官の地位に就くこと、また、引き受けることもないだろう、と声明した。

今日、発表されたメッセージの中で「みなさんにさよならを言うものではありません。私の願いはただ、一兵士として思想闘争を闘いたいということです。今後も『フィデル同志の回想記』の題で書き続けます。それは信頼できる武器の一つになるでしょう。たぶん、私の声が聞こえてくるのではないかと思います。私自身は体調に気をつけます。」とフィデル・カストロ議長は強調している。

※資料は、次ページ

## 司令官からのメッセージ

訳：富山栄子

親愛なる同胞のみなさん、

2月15日の先週金曜日、私は次回の回想記では多くの同胞たちに関心のある事らについて触れてみたいと約束しました。ですから、今回はこのような形のメッセージになりました。

今、国家評議会の議長、副議長そして書記を指名し、選出する時期がやってきています。

私は長年にわたって、議長という名誉ある任務を果たしてきました。1976年2月15日、社会主義憲法が95%を越える有権者の自由な直接秘密投票で承認されました。第1回国会は同年12月2日に発足し、この国会で国家評議会と評議会議長が選出されました。それ以前の約18年間、私は首相でした。つねに圧倒的多数のキューバ国民の支持によって、私は革命事業を前進させるのに必要な特別な権利をもっていました。

私の深刻な健康状態から見て、外国の多くの人たちは2006年7月31日に国家評議会議長の地位をラウル・カストロ・ルス第一副議長に暫定的に移譲したことが決定的事態だと考えました。ラウルは自らの個人的資質から国防長官の地位にも就いていますが、そのラウル自身も党と国家の指導部の同志たちも、私の健康状態が不安定であっても、私がこの二つの任務から離れることを考える気はありませんでした。

このような立場は、私を抹殺するためならできることは何でもやる敵対者と対峙している中では居心地の良くないものでした。また、私にとってもこの状態を続けることに気は進みませんでした。

その後静養したおかげで、再び私は自分の精神生活を完璧に統率し、たくさん読み、回想することができるまでになりました。何時間も書き続ける十分な体力を得ましたが、それはリハビリと日常的回復計画の結果、出てきたものです。基本的な常識から言えば、書き物をするような活動は私の体力の限度内にすっかり入っています。しかし一方で健康について話すときには、予期しない終末が発生した場合、闘争の最中にあるキューバ国民に対してトラウマを残すようなニュースがもたらす幻想を回避することにいつも私は気を配りました。つまり、キューバ国民が政治的にも、心理的にも私の不在に準備ができていようにすることが、長い間闘ってきた後の最初の私の義務でした。その都度、私は「リスクがない」体調の回復はないと言い続けてきました。

私の希望はつねに、最後の息が続くまで自らの義務を果たすことでした。これが私にできることです。

つい最近の日々のことですが、キューバ革命の運命について重要な合意を採択する国会の議員として私を選出し、多大な名誉を与えてくださった、私よりも親愛の情を持つ同胞のみなさんに次のように言っておきたいと思います。私は国家評議会議長および最高司令官の地位に自ら就く、また、その地位を受けることはない、繰返します、自ら就くことも、受けることもありません。

国営テレビの番組「ラウンド・テーブル」のディレクターのランディ・アロンソに私は何通か短い手紙を送っています。そのうち何通かは私から要請して公表してもらっています。その中には、今日書いているこのメッセージの要素が控えめに含まれています。もしかしたら、そのランディさえも私の意図に気づかなかったのかもしれませんが。まだランディがジャーナリズム専攻の学生だったときから彼のことをよく知っているの、信頼していました。そのころ、私はほとんど毎週のように大学の学生たちの主な代表者たちと会っていて、ランディは地方出身者として知られていました。宿舎であるコーリー\*1の大きな家の図書館で会っていました。今日では国全体が巨大な大学のようになっています。

次に書き出したパラグラフは07年12月17日にランディに宛てた手紙からの引用です。

「最大の私の信念は次のことです。現在、キューバ社会は平均的にはほぼ12年教育が行き渡り、約100万人の大学卒業生があり、何らの差別なしに、市民が教育を受けられる真の可能性をもっています。そして現在、この社会が直面している問題を解決するには、チェス盤上のコマの進め方よりもさらに多くの方法がそれぞれの具体的問題について必要だということです。革命的社会においては人間の知性が本能に打ち勝たなければならないとするならば、どの一つの詳細な点も無視することはできないし、安易な道はとれません。」

「私の基本的義務は地位に就いていることではないし、まして若い人々の行く道を邪魔することでもありません。そうではなく、私自身の経験と考え方をささげたいということです。ささやかなその値打ちは私自身がたまたま生きてきた時代から生まれたものです。」

「二エメイル\*2のように、人は最後まで一貫した態度を貫かなくてはならないと私は思います。」

さらに08年1月8日の手紙です。

「、、、私は統一投票（認められなかった功績を保持する原則）の強力な擁護者です。私たちはこの方法によって、孤立はしていたが、一方ではキューバに非常に連帯的だった旧社会主義圏、その国々からきたものを真似る傾向を回避できました。その中には単独候補者の肖像画があります。社会主義建設を初めて行おうとした意思、私はそれに大きな敬意を払っています。そのおかげで、私たちは選んだ道を継続することができました。」

「頭の中にはつねに、世界のすべての栄光は一粒のトウモロコシの中に凝縮される\*3という言葉がありました。」とその手紙の中で繰返しました。

したがって、機動性を必要とし、自分の今の肉体的条件を上回るすべてをささげるような責任を負うことは、私の意識にとっては裏切り行為になってしまいます。これについて冷静に説明します。

幸運にも私たちのキューバ革命の過程は、今のところまだ昔の親衛隊の指導部と革命の初期段階が始まったときに幼かった人々に任せておくことができます。中には全くこどもなのに山の戦闘員に合流した人もいました。その後、この世代の人々は英雄的な闘いと国際主義的使命をもってキューバを栄光で満たしました。この世代の人々には人事交代を保証する権限と経験が備わっています。同様にキューバ革命の過程には、私たちの世代とともに一つの革命を組織し、指導するという複雑かつ到達困難な技術の要素を学んだ中間世代がいます。

革命の道はつねに困難で、全員の知的な努力が必要になるでしょう。弁解じみた、見るからに安易な道、つまり反論としての自己批判を私は信用しません。私たちは起こりうることの最悪の事態につねに準備ができていべきです。逆境にあって断固としていることと同じく、成功しても慎重であるべきという原則、これを忘れてはなりません。倒すべき敵対者はとてつもなく強力ですが、私たちは半世紀間、これを寄せ付けませんでした。

みなさんにさよならを言うのではありません。私の願いはただ、一兵士として思想闘争を闘いたいということです。今後も『フィデル同志の回想記』の題で書き続けます。それは信頼できる武器の一つになるでしょう。たぶん、私の声が聞こえてくるのではないかと思います。私自身は体調に気をつけます。ありがとう。

フィデル・カストロ・ルス  
2008年2月18日 午後5時30分

- \*1 Kohly ハバナ市内の住宅地域
- \*2 Nyemeyer ブラジリアを設計したブラジル人建築家
- \*3 「世界のすべての栄光は一粒のトウモロコシの中に凝縮される」はキューバ独立の父ホセ・マルティの残した言葉。